

研究授業「子ども家庭支援論」についての考察

田中 弓子¹

Consideration of an Open Class “Children and Home Support Theory”

TANAKA Yumiko

要約

本稿は 2024 年度高松短期大学保育学科研究授業の報告である。当該授業科目（子ども家庭支援論）における第 10 回授業のテーマを「子育て家庭の状況を理解する」とし、講義を進めた。授業を参観した教員からのコメントを基に、授業を実施する際に留意すべきことを考察した。

キーワード 研究授業

Abstract

This paper is a report on an open class performed in Department of Early Childhood Care and Education at Takamatsu Junior College in the 2024 academic year. The theme of this lecture was to understand families raising children. I explored what to keep in mind when teaching the class, incorporating feedback from teacher who observed this open class.

Keywords: open class

はじめに

本稿は、令和6年度第2回保育学科研究授業「子ども家庭支援論」の振返りと考察である。

保育学科では、平成21年度にこれまでに実施した研究授業の蓄積に基づき「春日の里の知恵袋－保育学科のティーチング・ティップス」を作成、公開した（田中ほか、2011）。この資料を参考に、授業者も様々な点で授業改善に取り組みつつ、本研究授業を迎えた。

1.研究授業の日程

1.1 研究授業

日 時：令和6年12月10日（火）第2校時（10：40-12：10）

場 所：本学 本館306 講義室

科 目：子ども家庭支援論

担 当：田中 弓子

受講生：本学保育学科2年次生

1.2 授業検討会

日 時：令和6年12月10日（火）第3校時（13：00-14：30）

2.「子ども家庭支援論」の基本的性格

保育学科において「子ども家庭支援論」は、「保育士資格（「保育の対象の理解に関する科目」）取得のための必修科目である。

シラバスで、授業者は次のように子ども家庭支援論を紹介した。

子ども家庭支援論では、私的領域であった家庭内の子育てを、社会全体で支えるようになった背景について理解し、職業使命感と倫理観を高める。その上で、保育所・こども園・幼稚園を利用する親子のみならず、地域の親子までを視野に入れた支援のあり方に関する専門的知識を身に付け、保育実践力向上へと導いていく。

「保育学科の目指す保育者像」に従い、具体的到達目標を次のように設定します。

1.学生は、子育て家庭への支援者として保育所保育指針を理解した上で、教育・保育職の意義を習得することによって使命感や倫理観を高めることができる。

2.学生は、家庭ならびに子育て家庭への支援に関する専門的知識や判断力を習得することができる。

3.家庭支援論における指導上のポイント－「春日の里の知恵袋－保育学科のティーチング・ティップス」を参考に－

3.1 受講生の現状

保育士資格および幼稚園教諭二種免許状取得に必要な実習が全て終わった 2 年生後期に開講される科目である。授業を受ける態度については、今年に限られたことではないが、学生の気の緩みがないとは言えない状況である。その現れとして、欠席学生が 2 年生前期までに比べ増えてくる。加えて、本科目は、学生がこれまで学修してきた子ども中心の話題から保護者に変わる。卒業を控えた 2 年生にはより理解が求められる内容であるため、本科目の重要性を伝えながらすすめる必要がある。

3.2 静粛な環境

本授業担当者は、保育学科学生の授業を各セメスターで最低 1 科目担当している。よって、履修上の注意事項を共通にし、学生に注意を促している。主に、「遅刻・欠席の取り扱い」「授業に必要なない携帯電話、食事、私語の禁止」などである。また、授業時間中の机間巡視を心がけている。

また、座席は指定しており、出席管理、配布物の配布および返却をスムーズに行い、授業時間のロスを少なくしている。

3.3 授業上の配慮

授業ワークシートを配布し、そこに教員の板書を書き込むよう指導している。基本的には両面印刷の授業ワークシート 1 枚を配布している。学生の自主的閲覧を期待した多種類の資料配布は、逆に学生の混乱を招く恐れがあるので、1 枚に必要な情報をまとめるようにしている。

また、学生に授業を受けた満足感を与え、必要事項が身につくように板書内容をパワーポイントにまとめている。さらに、学生の能力に鑑み、具体例を示し、視覚的、具体的に学生がイメージできるよう心がけている。さらに、本科目は講義形式の科目ではあるが、保護者対応に関する事例検討を毎回行い、学生の実践力強化にも努めている。さらに、グループワークおよび、自発的な発言を促し、主体的な学びとなるよう努めている。

3.4 授業のまとめと事前学習

授業ワークシートの最後にあるコメント欄には「授業の理解度を確認する内容」もしくは「次回授業の事前学習となる内容」等を記入させている。そのコメント欄に学生が書いた内容を確認し、学生の理解度を把握している。また、その内容の代表的な意見を次回授業で話題にし、学生のコメントに答えるようにしている。

事例検討に関する内容は、次回授業に必ず参考解答例に加え、解釈の基本も加えて説明している。

4. 子ども家庭支援論の講義計画と本研究授業の概要

4.1 子ども家庭支援論の講義計画

- 第1講:家族の今とむかし
- 第2講:現代家族の状況(結婚)
- 第3講:現代家族の状況(家族の変化)
- 第4講:現代家族の状況(子育て)
- 第5講:働く母親と仕事
- 第6講:保育所を利用する家庭への支援
- 第7講:地域の家庭への支援
- 第8講:父親と子育て
- 第9講:子育て支援施策
- 第10講:子育て家庭の状況を理解する
- 第11講:多様なニーズに対応した支援
- 第12講:要保護児童・家庭への支援
- 第13講:特別な支援を必要とする子ども・家庭への支援
- 第14講:さまざまな子育て支援サービスが抱える問題
- 第15講:今後の家庭支援のあり方

4.2 本時の概要

本時の授業内容を計画するにあたって、次のような経験があった。授業で、保護者(特に働く母親)の家庭内および職場内での状況を説明している中で、学生から、「働く母親は大変」、「もっと社会が変わって欲しい」という声があった。決して間違った声ではないが、教室で聞いていると、どこか他人事に考えているように見えた。保育者として子育て家庭に関わるというだけでなく、学生自身が子育て家庭となるかもしれない。就職すれば、同僚に子育て家庭がいるかもしれないということを当事者として考えられているのか疑問だった。この点を理解できなければ、保護者の職場等で置かれている状況を理解していると言い難いからである。同僚性を発揮することや、学生が言う「社会」に自分たちも該当することを考える時間にすることが、子育て支援を行う者として必要であると考えた。

以下、時間区分等については資料(本時指導案)を参照してほしい。まず、導入では、これまでの授業で説明した子育て家庭の現状の復習をした。展開につながるように、同僚性に関係のある、子育て家庭の緊急時をあげ、展開につなげた。

続いて、展開部分では、0歳児の子どもを育てる先輩保育士の事例をあげ、その先輩保育士が、たびたび子どもの病気を理由に休むことに対して、同僚という立場に立って学生に考えさせた。同じようなことが、保育所の保護者に起こったら、同情できるのに、同僚であると、自分に仕事量での影響があり、同情できない部分があると話した。これが、「社会が変わらない」原因かもしれないと考える学生が出始めた。

最後に、同僚性についてまとめた。子育てだけでなく、介護、病気など家族に起こる緊急時に対応できない家族が増え、それを互いに支えあいながら同僚性を発揮する必要性があ

ることをまとめた。新人保育士を同僚が支えていることも学生は忘れてはいけないと補足している。

5.研究授業を終えての省察

本稿を参観していただいた教員の方々による授業検討会での発言内容や参観記録に従えば、「授業ノートなどの教材準備・使用方法」および「授業内容」について、概ね肯定的な評価が確認される。

他方で、講義の改善に関するいくつかのご示唆を頂いたことも確認しておきたい。

まず、1つ目は、パワーポイント資料を用意している場合、詳細な学習シートは不要ではないかという意見であった。本授業では、教科書を指定していないため、学生の手元に残る資料が、学習シートしかない。そのため、学習シートに授業の内容が残るものとしているため、詳細に見えるのかもしれない。また、パワーポイント資料をそのまま配布した場合、授業中、メモとらない学生が出てくる可能性が高いため、パワーポイント資料をそのまま配布することはしていない。

2つ目は、授業で扱う内容が限定されているのではないかという意見である。今回であれば、緊急時を子どもの病気として捉えていたが、他にもあるのではないかということである。子どもの病気時が、子育て家庭の抱える緊急時の上位となるが、その他の例を学生に伝えることも可能であったと考える。また、学生の意見を求めているものの、誘導的ではないかという意見があった。授業を結論へと導くために、そのように見えたかもしれない。どのような意見も否定することは決してないが、もう少し、様々な意見を出し合う時間があっても良かったかもしれない。ただ、保育士養成課程において、教授内容がある程度決まっている中で、学生の主体的活動にどれほどの時間が取ってよいかは今後の課題である。

おわりに

保護者の置かれた状況を理解する方法をここ数年模索してきた。学生が、子育て中の保護者の置かれた状況をどうしても理解し難い世代にあること、そもそも、他者の状況を想像することが難しい学生が増えてきたことが理由である。ただ単に、支援の方法だけを知ろうとする学生もみられる。保育所保育指針にあるように、保護者の置かれた状況を理解しなければ、適切な（保護者のニーズに沿った）支援はできない。そこで、子育てと仕事の両立が難しい理由を、保護者でも保育者でもなく、一人の社会人という立場で考えてみた。それが、同僚に子育て家庭がいたときという本時の内容である。保育者の立場ではなく、一人の社会人としての立場で考える経験が、保護者目線の子育て支援につながることを期待したい。

また、どんなに授業内容を工夫しても、静粛な環境を保つよう授業者が誠心誠意取り組むことがなければ授業は成立しない。ここを怠れば、内容豊かな授業をしても、学生に通じない。大学という場で、このようなことに力を注ぐことへの迷いが無いわけではないが、やはり必要性を感じている。「春日の里の知恵袋－保育学科のティーチング・ティップス」の内容が後押しとなった。

本稿の最後に、研究授業にご協力いただいた受講生（保育学科2年次生）、ご参観いただき、授業検討会や参観記録で貴重なご意見をいただいた教員の方々に深謝の意を示す。

参考文献

- ・厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説書』フレーベル館。
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館。
- ・野原理子（2017）「保育園児の病欠頻度に関する研究」『東京女子医科大学雑誌』第87巻5号、pp.146-150。
- ・田中弓子（2012）「働く母親が子育てと仕事の両立の上で抱える苦悩」高松大学・高松短期大学『研究紀要』56・57合併号、pp.283-298。
- ・田中崇教ほか（2011）「保育学科におけるファカルティ・ディベロップメント活動の成果報告－研究授業の蓄積に基づくティーチング・ティップスの作成－」高松大学・高松短期大学『研究紀要』54・55号合併号、pp.311-349。

<資料：第10講指導案>

令和6年度第2回研究授業

令和6年12月10日

「子ども家庭支援論」第10講
-子育て家庭(保護者)の現状を理解し、支援につなげる-

担当：田中 弓子

本時の目標

- ・子育て家庭の現状を理解できる。
- ・子育て家庭の多様なニーズを知ることができる。

受講生

保育学科2年生(37名)

科目の性格および単位数

保育士資格取得のための必修科目、講義2単位

授業計画および本時の計画

第1講:家族の今とむかし 第2講:現代家族の状況(結婚) 第3講:現代家族の状況(家族の変化) 第4講:現代家族の状況(子育て) 第5講:働く母親と仕事 第6講:保育所を利用する家庭への支援 第7講:地域の家庭への支援 第8講:父親と子育て 第9講:子育て支援施策 第10講:子育て家庭の現状を理解する 第11講:多様なニーズに対応した支援 第12講:要保護児童・家庭への支援 第13講:特別な支援を必要とする子ども・家庭への支援 第14講:さまざまな子育て支援サービスが抱える問題 第15講:今後の家庭支援のあり方	<p><u>10:40 これまでの授業の振り返り</u> これまでの授業で学んだ、子育て家庭の現状を振り返り、そこで問題となっていた「緊急時」について考えるきっかけとする。 その際、指針を用い、保育士が家庭の状況を把握することの必要性を確認する。</p> <p><u>11:00 状況を理解する活動</u> 今後、学生も経験する可能性のある事例を取り上げる。子育て家庭に起こる問題は、学生の身近に存在し、自分事としても考えるきっかけとしたい。その後、共有。</p> <p><u>11:20 映像や資料の確認/保護者の状況を理解</u> 子育てを取り巻く複雑な状況に触れ、学生自身の考えも、実は子育て家庭に向いていない部分を経験できるようにする。その上で、保護者の状況がいかに厳しい中にあるのかを、具体的にイメージできるようにしたい。</p> <p><u>11:50 まとめ</u> まず、誰しものことができること、その考え方を説明する。その上で、次回以降の授業につながる、多様な保育ニーズに対する支援の在り方につなげていきたい。</p>
--	--

準備物：保育所保育指針、学習シート、映像

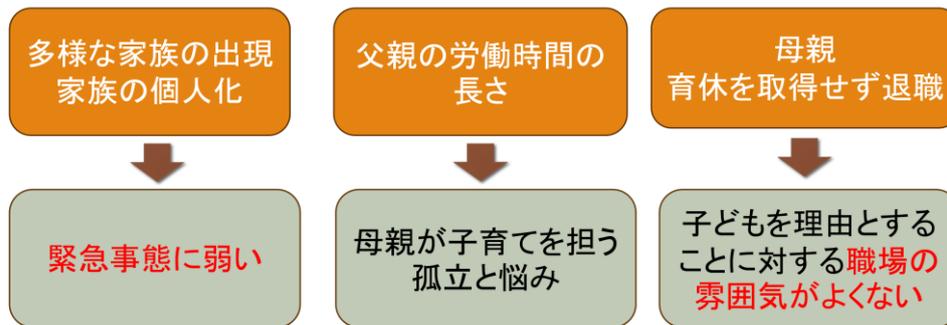
<資料：授業ワークシート>

学籍番号()氏名()

子ども家庭支援論

子育て家庭(保護者)の現状を理解し、支援につなげる

これまでの授業から 子育て家庭の現状とは



子どもの緊急時の課題



- ・0歳児で病欠日数が多い
- ・早退や遅刻は入っていない
- ・毎月平均して休むのではなく、月による偏り

保護者の欠勤・早退・遅刻数はグラフより多い
病気は予告なく起こる

「育児休業終えた後の壁」と0歳児に多い病気と関連させ、母親の気持ちを考えてみよう。

『保育所保育指針解説』平成30年3月 p.333

家庭と保育所が互いに理解し合い、その関係を深めるためには、保育士等が保護者の置かれている状況を把握し、思いを受け止めること、(以下、省略)

学生コメント：
社会が変わる・仕事と子育ての両立しやすく

保護者の置かれている状況を把握する活動

先輩 A さん、女性(31 歳)、保育士歴 10 年
クラスリーダーの経験もあるベテラン
昨年、出産。現在は 1 歳 3 か月(0 歳児)の子どもの母親、今年度 4 月から復帰

後輩 B さん(20 歳)、今年度 4 月から新社会人
先輩 A さんと 2 人で 3 歳児の担任
一人担任でも可能な子どもの数ではあるが、2 人で担任をしている。

先輩 A さんと後輩 B さんの気持ちを事例をもとに考えてみよう。

先輩 A さん	後輩 B さん	
---------	---------	--

子どもの緊急時の課題

子どもが病気の時の気持ち

保護者の状況を理解しよう

病気の子どもに対し
れているか

職場に対し

職場からどのように考えら

・申し訳なさ

十分にケアできない

子どもより仕事のことを

考えてしまう

・申し訳なさ

迷惑をかけている

・理解のなさに苛立ち

・「子持ち様」という皮肉

自分の業務負担が増えた

急に予定を変えられる

仕事を任せにくい

考えは似ている？似ていない？

いろいろな面で余裕のない場合、肯定的に受け止めることができない。

みなさんのコメント：

社会が変わる・仕事と子育ての両立しやすく??本当??

今日の活動から、子育て家庭の状況とは？

「社会が変わる・仕事と子育ての両立しやすく」という学生コメントに対し、考えたこと？

社会が変わる・仕事と子育ての両立しやすく・・・

支え支えられてお互い様

今は助けてもらうけど、余裕ができれば、今度は自分が助ける

・・・これが人間関係の基本

子育てに限らず介護、病気など、緊急時と呼べるものは、たくさんあり、どの人にも関係のあるという視点も忘れてはならない。

次回に向けて

子育てを自ら実践する力の向上のための支援について